臺灣南湖大山山頂附近に産する擬擦痕礫 [早坂一郎]

臺灣の背梁山脈地域、特に次高山彙、南湖大山彙に於ける氷河地域に關する鹿野忠雄、田中薫兩理學士の調査報文は臺灣地質の研究者にとつてのみならず、一般に地質學並びに地史學などに關心を有つ者にとつて極めて貴い資料である。

その内で田中、鹿野兩氏共著「臺灣南湖大山山彙に於ける氷蝕地形」(地理學評論, 3, 1934) 中には南湖大山彙の山頂に近い氷蝕地形地域内の諸所に、氷河擦痕を擔ふ礫や岩盤上の研磨面などの發見されたことが記述されてある。特に立派な數個の寫眞も掲げられてゐるので、夫等についての記載が必ずしも充分とは思はれないが、兩氏の論旨に對するそれ等の意義は充分に理解される。

この小文の目的とするところは、同じ南湖大山の山頂附近に無數に散布してゐると林朝榮理學士が觀察し、且持ち歸つたところの擬擦痕礫の標本の紹介に過ぎない。林理學士は本年の夏或仕事の爲の出張のついでに、南湖大山の山頂附近を稍詳しく觀察する機會を得たのであるが、其際氷河地形、氷河遺跡等で近頃特に著名になつた地域であることに留意して、地形並びに一般氷蝕現象についての資料を蒐めることに努めたのである。

林理學士の調査の結果について、私は口頭を以て説明を聞き、且標本の提示を受けたのであるが、ここには其説明の要點を記すに止める。(詳しいことはいつれ林氏が目下の出張先から歸つた上で、改めて報告する必要を生ずるかも知れない)。即ち林氏は南湖大山の三角點の下の附近で氷蝕礫の標本を得んものと大いに探し求めたのであつたが、不幸にして1個も得られなかつた。而して其らしいもので見付かつたのは、ここに寫眞に示した様なものばかりであり、而も其數は相當に多いと云ふ。

其標本が如何なるものであるかは、ここに掲げた寫眞からも直ちに判るであらうが念の爲簡単に記載する。標本は薄い黑色粘板岩の lamellae をはさむ灰褐色の堅い石英質板狀砂岩の一片で、細い石英脈に貫かれてゐる。其兩面にはこの黑色で幾分墨青質に見える粘板岩の薄層が附着してゐる。其面の上に殆ど直線的な、一見氷河條痕と思はれる多數の線がある。之等の線の内には方向の違つたものもあつて、互に相交つ

第 1 圖

てゐる。第 1 圖はこの標本の寫眞で實物の $\frac{3}{8}$ に縮めてあるが、其厚さは 3.5cm 位のものである。粘板岩の部分の表面に見られる線は、粘板岩がはげ落ち、更に其下の砂岩の一部がかけ落ちたところまで一續きになつてゐるのみならず、この部分では此砂岩の内部の構造がよく認められる。即ちルーベの助を借りるまでもなく、ここに掲げた寫眞からも直ちに判る様に、この砂岩片には層面に對して 270 度内外の角度をなす無數の細かな節理が出来て居り、標本の表面に見らるる條痕様の線は、實は之等の節理が層面と交る線に外ならない。この事實は第 1 圖の右端でよく見られる。第 2 圖は位置の関係上、第 1 圖と同じ縮尺には出来なかつたが、同じ標本を右端から見た寫眞である。第 1 圖を補ふだらうと思ひここに掲げておく。

之等の線は詳しく調べれば判る様に、この砂岩片の表面上では極めて僅かではあるが、階段状をなしてゐる。この階段は前述の細かな節理に沿ふて正斷層型の微細な段違ひを生じた結果に外ならない。表面の粘板岩の部分では其段違ひが屢々微細な Flexure となつてゐる。斯様な無數の小節理及び小斷層は大きな造山力に依る壓力などの影響で出来たものに相違ない。

試みに、第 1 圖の周圍の部分を覆ひ隠し、其中央部の黑色粘板岩の部分のみを露はして見られよ。其の「氷河擦痕らしさ」は一段と著しくなるであらう。特に、その多

第 2 圖

數が氷河地形の地域に産するといふのであるから、礫の内部構造に注意することに氣付かなかつたならば、林理學士も或は此標本を直に氷蝕礫として持ち歸つたであらう。

ここに擬擦痕礫の一例として報告し、氷河學者諸氏の御參考に供する次第である。

(10月23日 臺北帝國大學地質學教室にて)

Abstract

Boulder With Mock Striation in the Neighbourhood of the Peak of Nanko-Taizan, Taiwan

Ichirô HAYASAKA

Sandstone slabs penetrated by numerous minute straight joints with very slight vertical displacements were recently found by RIN quite abundantly around the peak region of Nanko-Taizan, where physiographical evidences of former glaciation seem to have been ascertained by TANAKA and KANÔ. They reported to have found there glacier-scratched boulder, for which RIN searched earnestly but in vain. The joints, or rather minute faults are represented by equally minute flexures here and there in the slate patch attached to the surface of the specimen.

La Haute- Tarentaise. [P.Libert]

Ann. de Géogr. 43 (1934), 579—593.

Haute-Tarentaise は Alps の中心に位置し其の高度起伏と共に經濟上人文上より見ても、特殊な性質を具へた高山の色彩の濃厚な地方である。Isère 谷の水源は 2400m で Galise 氷河に續き、其れより 40km 下流の Bourg-Saint-Maurice は 800m である。